

第3章 緊急時・治安

1. 全般

オランダは比較的安全な国ですが、近年、治安の悪化が著しく、特にアムステルダム、ロッテルダムのような都市部では、犯罪が多発しています。犯罪件数全体の約7割を占めるのは、盗難、空巣、窃盗、置き引き、スリ等で、銃器関連の殺人事件は稀です。

オランダ政府は麻薬中毒患者が引き起こす犯罪を防止する意味から、中毒患者を登録し、メタドンという薬物を与える治療対策を採っています。また、治安対策として警察官の数を増やし、危険区域では常時パトロールして犯罪防止に努めています。万一事件が起きた場合、即座に対処できる体制も整備されています。

日本人は「身を守る」ことに対する感覚が甘いとオランダ警察に指摘されていますので、危ないと感じるような場所には近付かない、自分の持ち物には自分で責任を持つ、など日頃から注意が必要です。

次に、いくつか気を付けるべき点を挙げます。トラブルのないオランダ生活を送るために、各人でくれぐれも用心を怠らないことが肝心です。在オランダ日本国大使館・ホームページの「領事情報」には、邦人安全情報が掲載されていますので、ご参考ください。

<http://www.nl.emb-japan.go.jp/j/consulate/index.html>

テロへの対策、情報収集について

海外渡航前には万一に備え、家族や友人、職場等に日程や渡航先での連絡先を伝えて置きましょう。3ヶ月以上滞在する方は、緊急事態に備え必ず大使館へ在留届を出して置きましょう。

(<http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/todoke/zairyu/index.html>)

また、短期の旅行や出張などには「たびレジ」の登録をお勧めします。

(詳細は <https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/#> 参照)

テロに関しては以下もご参照下さい。

(1) パンフレット「海外へ進出する日本人・企業のための爆弾テロ対策 Q&A」

(2) パンフレット「海外旅行のテロ・誘拐対策」

(パンフレットは、<http://www.anzen.mofa.go.jp/pamph/pamph.html> に掲載)

(3) パンフレット「海外赴任者のための安全対策小読本」

海外生活の基本的側面について、一般的に注意すべき要点を紹介している。<http://www.anzen.mofa.go.jp/pamph/pdf/overseas2013.pdf>

(問い合わせ先窓口)

○外務省領事サービスセンター (海外安全相談班)

住所：東京都千代田区霞が関 2-2-1

電話：(代表) 03-3580-3311 (内線) 2902、2903

(直通) 03-5501-8162

(外務省関係課室連絡先)

○外務省領事局邦人テロ対策室 (テロ・誘拐関連)

住所：東京都千代田区霞が関 2-2-1

電話：(代表) 03-3580-3311 (内線) 3399

○外務省領事局海外邦人安全課 (テロ・誘拐関連を除く)

住所：東京都千代田区霞が関 2-2-1

電話：(代表) 03-3580-3311 (内線) 2306

○外務省 海外安全ホームページ：<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

<http://m.anzen.mofa.go.jp/mbtop.asp> (携帯版海外安全情報)

<p>助けて！ HELP！ (英語と全く同じ発音です)</p>

2. 緊急時

緊急時のサイレン

大規模な災害が発生した場合、緊急時のサイレンが鳴ります。サイレンが聞こえたら、①最寄りの建物の中に入り、②窓とドアを全て閉め、③ラジオかテレビをつけて情報を得るようにしてください。

避難するように指示されたら、①ガス、水道、電気を消し、②必要な物だけ持ち、③家の鍵を閉め、④隣人も避難の指示を聞いたか確かめて出ましょう。

自家用車で避難する場合は、できるだけ多くの人を同乗させ、ラジオで交通情報を聞きながら、警察の指示に従って避難場所に行ってください。

オランダでは、毎月第一月曜日の正午に各地に設置されているサイレンのテストが実施されています。

「Weet wat je moet doen als de sirene gaat」

というタイトルのパンフレットが区役所においてあります。

また、最近では非常時をスマートフォンで知らせる NL-Alert という政府が提供するサービスがあります。

<http://www.nl-alert.nl> から簡単に登録することができます。

まず上記のホームページを開き、instelhelp をクリックし使用している携帯の機種を選びます。次にお使いの携帯電話から www.nl-alert.nl/mijnbesturingssysteem のサイトに入りご自身の電話の besturingssysteem (オペレーティングシステム) を3つの中から選ぶだけで完了します。緊急時には自動的に連絡が入る便利なサービスです。



警報用サイレン

警察の電話番号は全国共通で 0900-8844 です。セントラルコールセンターにつながりそこから住まいに近い場所につないでもらえます。

<https://www.politie.nl/mijn-buurt/politiebureaus> のサイトで郵便番号または都市名を入力するとその地域の警察署の住所などを調べることができます。

また <https://www.politie.nl/mijn-buurt/misdaad-in-kaart> のサイトでは郵便番号または都市名を入力し **Zoeken** をクリックするとこの3ヶ月間の間にその地域で起きた家宅侵入（強盗）またはその未遂事件の件数を見ることができます。（最初は地図で表示されますが **Toon als lijst** をクリックすると日付などの情報を見ることができます）

<消防署 >

<https://www.politie.nl/mijn-buurt> のサイトの地図で住所のある場所（都市ごとではなく担当区域ごとです）をクリックすると各地の消防署の住所や電話番号などを調べることができます。

● Amsterdam:

警察 0900-8844/112

消防署 020-555.6666/112

救急車 112

当番医センター 088-0030600

<http://www.huisartsenpostenamsterdam.nl/english-summary/>

● Amstelveen

警察 0900-8844/112

消防署 020-621.2121/112

救急車 112

当番医センター 020-456.2000

<http://www.huisartsenpost-amstelland.nl/en/>

● Den Haag:

警察 0900-8844/112

消防署 088-886.8000/112

救急車 112

当番医センター 070-346.9669

<http://www.smashaaglanden.nl/>

● Rotterdam:

警察 0900-8844/112

消防署 010-446.8900/112

救急車 112

当番医センター 010-466.9573(Huisartsenpost St.Franciscus Gasthuis)

<http://huisartsenpostenrijnmond.nl>

0174-638.738 (Westland)

<http://huisartsendecordes.nl/spoed/>

● Tilburg :

警察 0900-8844/112

消防署 013-542.7680/088-225.0100621212/112

救急車 112

当番医センター 0900-332.2222

<http://www.huisartsenposttilburg.nl>

● Maastricht:

警察 0900-8844/112

消防署 088-4507450/112

救急車 112

当番医センター 043-387.7777

<http://www.hapmaastricht.nl/nl/bellen/>

<救急車の呼び方>

「医療」の項でもふれていますが、急病発生時には、まず、ホームドクター（時間外や休暇中は当番医センター）に連絡を取ります。ホームドクターが状況に応じて救急車を呼ぶように指示をしたら、救急車用の緊急番号に連絡します。ドクターが救急車を呼んでくれる場合もあります。

医療保険に加入していると保険でカバーされますが、オランダでは救急車は有料です。

<犯罪の被害にあったとき>

直ぐに警察 0900-8844 に連絡します。被害の状況をよく調べ、カードなどが盗まれている場合は直ぐに連絡してブロックをします。警察に被害届を出し、保険会社にも連絡します。

軽犯罪の場合は、警察署に被害届を出しに行かなくても、電話するだけで手続きが済む場合や、インターネットで報告することができる場合もあります。どの方法が良いのかわからない場合には 0900-8844 に電話をして確認する方がいいでしょう。

報告すると警察の捜査や、被害者が保険会社に見せるために必要な報告書 (Proces verbaal)を手配してくれます。

<ロックアウトされた時>

家の中に鍵を置いたままドアを閉めてしまった時などには、24 時間サービスの鍵を開ける専門機関があります。

*** Amsterdam :** SOS Service B.V. Tel:020-616.6464 / 694.9594

<http://www.sosnelsevice.nl/diensten/sleutels-en-sloten>

*** Den Haag :** Slotenmaker-Den Haag.NU Tel: 070 345 1800

<http://www.slotenmaker-den Haag.nl>

*** Rotterdam :** Kruek B.V. Tel:010-453.0000

<http://www.keyexpert.nl/>



職業別電話帳(Gouden Gids)の"Sleutels en sloten"の項を捜すか、またはインターネットで Sleutels en sloten+都市名を検索すると、"24uur per dag" あるいは"24uur bereikbaar" (24 時間営業) と謳ってある専門店が見つかります。いざという時のために、こうした専門店の電話番号を控えておくとお助かります。

なるべく、合鍵を作って家族それぞれが鍵を持つこと。そして、隣人、友人、会社の同僚などにも合鍵を預けておけばより安心でしょう。

もし、調理している最中(例えば、揚げ物をしている時)に、うっかりロックアウトされたような場合には、消防署に至急通報します。

3. 住まいの防犯対策

錠前などの防犯設備は専門家に設置してもらいましょう。家宅侵入の約 90%は、機会があれば侵入するという空き巣・窃盗犯によるものですから、住居に防犯システムを設置しておくとお効果的です。

安全な錠前を取り付けても、活用しなければ効果はありません。日中ちょっと外出する場合も常に戸締りを心がけ、窓は必ず閉めるようにしましょう。

外出時には、家の戸締まりを確認し「こんな小さい窓は気付かないだろう」と油断せずにすべての戸口、窓に鍵をかけ、台所、浴室の小窓も鍵をかけるようにしましょう。

- 空き巣は頑丈な外灯のある住宅は敬遠します。人に見られずに侵入するのが困難だからです。暗くなると自動的に点灯するセンサー付きライトや人が近づくと自動点灯する人感ライトを取り付けると効果的です。
- ドアマットや植木鉢の下には置き鍵をしない。空き巣にもよく知られている場所です。また、鍵をドアの内側にさし込んだままにして置かないようにしましょう。空き巣が郵便受けや壊したガラスから鍵を使ってドアを開けて侵入されてしまいます。鍵はいつも決まった場所に置くか吊るして置くと、緊急時にも即座に見つけることができます。
- 長期不在の時には在宅しているように見せかけるのも効果的です。ある一定の時刻になると自動的にスイッチが入るタイマーを電灯やラジオに接続しておく外部からは在宅しているように見えます。また、外出時にはカーテンをあえて半分ほど開けて中が見えるようにしておきます。また、知人や隣人に郵便物を取り込んでおいてもらうように依頼しましょう。郵便物が溜まっていると留守宅であるのが一目瞭然となり危険です。また留守中、隣人に窓や玄関の戸締りもできれば点検してもらいましょう。
- 休暇に出かけることを周りに言いふらさないよう気をつけましょう。泥棒にも噂が聞こえ、家宅侵入をたやすくします。
- 共同住宅などでは中央玄関のドアの開閉に気をつけましょう。ドアは顔見知りの来訪者にだけ開けるようにしましょう。
- 貴重品はいくつかの場所に分けて収納する方が安全です。念のために貴重品の写真を撮っておくと記録となり役立ちます。
- 煙報知器は近頃では比較的安価で市販されており、未然に火災を予知し、人命が助かっていることが証明されています。煙報知器は居間、台所、階下や二階の寝室など、数箇所に設置するのが効果的です。

4. スリ・置き引き対策

スリ・置き引きの被害は空港、観光名所、みやげ物店、ホテルのロビー、青空市場、駅、電車、トラムの中など人が集まる場所が一番危険です。

スリはカモフラージュのために上着やレインコートを手を持っていたり、肩にかけていたりし、数人の仲間が組んで犯行を行うことも多く、常習犯には子供や女性もいますのでご注意ください。

スリ・置き引きの仲間同士は一緒にやってきて別行動をしています。目線で合図しあっています。

観光客が特に利用するトラムはアムステルダムだけでなくターゲットとなりやすいので特に注意してください。特に中国人と日本人の観光客が狙われやすいようです。

被害に遭わないためには、現地の人と同じようなラフなカッコをして、ここにもう長く住んでいますというような態度が必要です。

大金は絶対に持ち歩かず、現金とガード類は分けておくのもより安全な方法です。お財布には盗られても諦めが付く程度の額を入れ、現金を2つに分けて持つようにしましょう。万一盗難にあった時のためにカードやIDのナンバー、連絡先をメモして持っているようにしましょう。

夏に誰もがTシャツで歩いているときに上着を手を持っていたり、肩にかけていたりしている人には要注意が必要です。スリはすった財布をそれらに隠してすぐに相棒に渡すために持っているのです。

スリ・置き引きは人の集まる場所に出没します。例えば、観光名所、みやげ物店、観光船の船着場、路上でのショーを見物している観光客などは彼らにとっては恰好の獲物となります。

スキポール空港でも気をつけてください。荷物から絶対に目と手を離さないようにしてください。例えば、出発ロビーの前でタクシーから降

り、荷物をワゴンにのせて、運転手さんにお金を渡したり、握手などしている間にカバンが盗まれることも少なくありません。

チェックインカウンターでも手荷物をしっかり持つようにしてください。何か話しかけてきたり、コインをばら撒いて一人が注意をひきつけ、その間に相棒がカバンを盗むというパターンも多いので気をつけてください。

不特定多数の人が出入りするホテルのロビーも同様です。ソファの横にカバンを置いている時に、何か話しかけられ、注意をカバンからそらせるとカバンが無くなっています。チェックインカウンターでも気をつけてください。それから、ビュッフェスタイルの朝食のときもバッグを置いたままでは席をたたないこと。

駅で電車の停車中には窓たたきに用心してください。犯人の一人が窓をたたき中に座っている人の注意をひきつけている間に仲間が通路を歩いて横の座席に置いたバッグを盗みます。

ファーストフードレストランで、イスの背に上着をかけたままにしていると、犯人が自分の財布を探すふりをしながら、財布をすばやく抜き取ることも多いので注意が必要です。

デパートやお店で試着をしている時にも、バッグや上着から目を離さないように習慣付けておくことも大切です。

買い物中のお財布の出し入れにも気をつけて下さい。友人などとおしゃべりしている間にすられてしまうこともあります。小さな子供を連れていると、どうしても子供に気を取られることが多く、スリに狙われやすいですので特に気をつけてください。

貴重品は上着の内ポケットの中に入れて、ボタンやチャックを閉めるりょうにすればなお安心です。ウェストバッグも上着で隠すようにしましょう。冬はショルダーバッグの上から上着を着るといいでしょう。

リュックサックはオランダ語のRUGZAKが語源の便利なものですが、トラムに乗る場合や人が大勢いる所では、背中ではなく、前に持ち替えた方が良いでしょう。背中だと鋭利なナイフで切られても気づくことができません。リュックサックには貴重品は入れない。ジープの後ろポケットに財布を入れているのは、スリにどうぞ盗って下さいと言わんばかりの行為です。

ショルダーバッグはたすきがけにして、トラムに乗る場合には前のほうに持ちましょう。前に抱えバッグには常に手を添えて置くようにするのが安全です。

バッグは自転車道や道路側ではなく、反対側にして持って下さい。自転車や自動車、オートバイに乗って通りがかりにひったくる悪質なひったくり泥棒もいます。

大切なことはいかにも観光客と見えないようにさっさと歩いて、油断と隙をみせないことです。

犯罪防止のためには、被害に遭ってしまったときに被害届けを出すことが大切です。

届出の詳細は

<https://www.politie.nl/aangifte-of-meldingdoen/aangifte-doen>

(オランダ語のみ) をご覧ください。

ピンパスの取り扱い

ピンパスでの支払いは便利で安全ですが、次の点に注意。
ピンパスや紙にピンコードを書き留めないこと。
紛失した場合はすぐに銀行のアラーム番号に電話してブロックします。
コードがブロックされた時点で、原則的には財政的リスクはなくなりません。

取引を停止するためのブロックの電話番号

ABN AMRO	0900 0024
ING	020 2288800
Rabobank	088 7226767 of je eigen Rabobank
Overige banken	0800 0313

下記のサイトにはオランダ国外からの銀行のパスのブロックのための電話番号がのっていますので、参考にしてください。

<http://www.consumentenbond.nl/betaalrekening/Extra/bankpas-kwijt-gestolen/>

電話は 24 時間いつでも受け付けています。

クレジットカードの盗難

至急、当該クレジットカードのオランダ本社に連絡してブロックしてもらいます。電話番号は次の通りです。

◆緊急連絡先：

American Express: Tel:020-504.8000 (24 時間)

JCB Card Services: Tel:00-800-0009.0009 (24 時間)

上記番号が繋がらない場合：+81-422-40-8122 日本着信コール

Visa Card: Tel:020-660.0611 (24 時間)

Master Card : Tel:0800-022-5821 (24 時間)

5. 飲酒運転

オランダでも飲酒運転によって毎年数百名が死亡し、数千名の人々が負傷しています。警察や司法当局では、飲酒運転取締りのために様々な試みを行っています。

飲酒運転は血中のアルコールの濃度が 0.5‰（パーミル）以上の場合には違反行為とみなされ、厳しい罰則が課されます。司法当局による起訴も年々さらに厳しくなっています。例えば数年前には、警察は最初の免許取得後5年目までの初心者で飲みすぎ（血液中のアルコール度が 0.2 パーミル以上）と認められたドライバーの免許証を取り上げることができると定められました。

<講習の義務>

悪質な飲酒運転者には裁判で罰金から懲役までのいずれかの罰則が与えられます。そして判決後数日すると、C B R（Centraal Bureau Rijvaardigheidsbewijzen）から LEMA または EMA（アルコール規制の教育）を受講する必要があると記された手紙が届きます。講習は数日間おこなわれ、講習リーダーとの面会も義務付けられるコースもあります。この講習に参加しないと運転免許証は失効させられます。講習費用は自己負担で、車や樹木の損害賠償も自己負担です。また、保険証書には飲酒運転で被害を及ぼした場合には保障されない旨が記載されています。

アドバイス:

- 飲む必要のある場合には、酒気を帯びていないドライバー『B O B』（Bewust Onbeschonken Bestuurder）に送り届けてもらう。
- タクシーを利用する。

6. 駐車での注意

◆駐車の際には、ドアやトランクの鍵を必ずかけ、窓も全部閉める。車内には何も置かず、ダッシュボードはわざと開き中に何も入っていないことが見えるようにし、駐車には、街灯のある、人通りの多い場所を選びましょう。

◆街の大規模な駐車場に夜間、車を取りに入るような場合はなるべく複数で行動しましょう。

◆深夜に車で走る場合には、内側からドアを全てロックして走り、パトカーでない限り、深夜に誰かが駐車するように合図してもドア、窓を直ぐには開けないようにしましょう。夫婦で買い物に出て、どちらか一方が車の中で待つような時も、内側からドアをロックして待つようにしましょう。

◆車を離れる直前に、トランクを開けてアタッシュ・ケースやゴルフバッグを入れたりしないようにしましょう。どこかで見ていて盗みに来る場合もあります。